

1 自己評価及び外部評価結果

(※外部評価はユニット別ではなく事業所全体のものです)

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3070103373		
法人名	(有)ライフパートナー		
事業所名	グループホームすずらん内原	【ユニット名:】かがやき	
所在地	和歌山県和歌山市内原634-1		
自己評価作成日	平成24年1月20日	評価結果市町村受理日	平成24年8月6日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

毎年事業所で祭を開催し、露店やイベント等で入居者と地域の方々と交流を図っている。今春には「ふれあい市場」を開催予定しており、より地域の方々ニーズを捉えたイベントを予定している。定期開催する事でより地域と密着できる機械を増やしていきたい。ホームの周りに花壇や畑があり入居者と共に園芸を行い、採れた食材を日常の食事に取り入れている。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=3070103373&SCD=320&PCD=30
----------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

玄関を入ると事務所の左右に各ユニットの建物があり隣にディサービスが併設されている。ホームの前には季節の野菜や花を作るために借りている畑もあり、収穫した野菜もメニューに取り入れて食の楽しみに色を添えている。日々の生活の中で、調理、片づけや掃除など入居者がそれぞれの持てる力を発揮できるように取り組み、入居者同士の助け合い、食事中の会話や笑い声にも、入居者間や職員との間に暖かい心の交流がみられる。運営推進会議の場を活用しながら、今後、より地域とのつながりを強めていけるよう取り組んでいる。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	一般社団法人和歌山県認知症支援協会		
所在地	和歌山市四番丁52 ハラダビル2F		
訪問調査日	平成24年2月16日		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

(※外部評価はユニット別ではなく事業所全体のものです)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員との対話の中で日常的に話し合い実践につなげているが十分に浸透しているとはいえない	各ユニット毎の理念は、以前のものを見直し全職員で話し合い作り上げた理念ではあるが、イメージしづらい表現であり、理念に基づいたケアの提供に向けて全職員に浸透するには至っていない。	誰が見ても解りやすく、イメージしやすい理念の作成に期待したい。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	事業所のイベントに住民を招待したり、近隣農家の方と共に農作業を行い、利用者・職員共に参加している	地域との繋がりに重点を置き、掲示板の活用や、市報にパンフレットをはさみ配布するなどしている。事業所を身近に知って貰えるよう自治会総会に地域包括支援センターの職員と出席することを予定している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議で認知症の人の理解の為の相談窓口を設けており、民生委員、自治会長と認知症についての意見交換会を実施する取り組みを検討中である		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議での意見や要望を日常のケアや運営に反映できるよう努めている。昨年は要望により、施設入り口に掲示板を設置し、事業所通達を掲示している	近隣の住民も参加して2ヶ月に1回開催されている。業務報告の他認知症についての学習会や地域との繋がり方など幅広く意見交換がなされている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	手続き上の連携はあるが、まだまだ協力関係を築けているとはいえない	市の担当者とは、介護保険の事務手続きの連絡に留まっているが、管理者はサービス向上に向けた協力関係を築いて行こうという姿勢を持っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	やむを得ず行う時は家族に十分に説明し、同意を得ている	職員への説明や家族の了承は得ているが、転落予防のために、夜間は後睡時にベッド柵を使用することがある。身体拘束についての研修はまだ行われていない。	職員で勉強会を重ねて、安全優先のなかに不自由さがあることについて話し合い認識を深め、入居者の拘束排除への取り組みを行っていくことに期待したい。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	日々のケアで虐待の防止に努めているが十分に研修で全職員に理解出来ているとはいえない		

【事業所名】グループホームすずらん内原 ユニット名:かがやき

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者のみ昨年末、研修を受けているが職員全体に普及していない		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	十分に話し合い、双方合意の上で契約を行っている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日常の関わりの中で意見を頂き、職員間や管理者と検討し、反映出来るよう努めている。また、ネ2回の家族会の開催で家族の集いを開催し、意見を求めている	年2回家族会が開催され意見交換会や交流の場となっている。月1回は家族に来所して貰えるよう働きかけ、その折に気付いた事など積極的に聞くように努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日常の関わりやカンファレンスを通じて意見を運営に反映出来るよう努めている	職員からの業務改善に関する意見を運営に活かすようにしている。毎月の会議に欠席する職員には、事前に書類で意見を求めている。代表者や管理者にはいつでも意見を述べる事ができる環境である。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の意見や思い等を管理者は代表者に伝え整備に努めている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員は様々な形で研修に参加する機会を与えられている。又、代表者は毎朝ミーティングに参加し、職員のケアについて理解し必要に応じて指導している		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修会等で交流を図っているが十分とはいえない		

【事業所名】グループホームすずらん内原 ユニット名:かがやき

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	家族・ケアマネージャーからあらかじめ情報を提供してもらい、入所の際アセスメントを行っている。不十分であれば日常の関わりの中で聞き取りを行っている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所の際にアセスメントを行い要望の把握に努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	福祉用具、医療、ボランティア等、必要に応じたサービスを説明し、本人・家族が希望するサービスを導入している		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	多くの利用者が、日々生き甲斐を持って(料理、洗濯、掃除等)生活出来る様支援している		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	関係を築ける様日々努めている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの人が来やすい環境作りに努めている	以前住んでいた地域の民生委員が訪ねて来たり、華道を教えていた頃の弟子の来訪もある。手芸の集まりやお寺の勉強会など行きたい所には行けるよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日常において役割を持ってもらいながら、関係が悪化しそうな場合においては職員が介入し良好な関係作りに努めている。また、共有スペースの工夫をしている		

【事業所名】グループホームすずらん内原 ユニット名:かがやき

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	いつでも連絡が取れる関係作りを行っている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人一人とのコミュニケーションを大事にし、希望や意向に添えるケアに努め、安心した生活を送ってもらえるよう努めている	居室で服のリフォームをする入居者もおり、意向に添えるように支援しているが、業務に追われ全員の思いを把握し職員間で共有できるには至っていない。	センター方式等のアセスメントツールを活用し、コミュニケーションから把握できた思いや意向を職員間で共有できることを期待したい。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	共有スペースにゆったりできる空間を作り、好みの物を身の回りに置き、居心地のいい環境作りに努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎朝のミーティングにて、利用者個々の心身状態の把握に努めている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	カンファレンスで本人・家族の意見も反映させ介護計画に反映させている	本人や家族の意見は、生活援助計画として記載されているが、どの入居者も似たような計画になっており、個別の介護計画として認識しにくい面がある。	本人、家族からの意向やカンファレンスの内容を介護計画に反映させ、個別性のある介護計画の作成が望まれる。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケース記録に心身の様子を記録し、なおかつミーティングをすることにより職員間で情報を共有しながらケアを行い介護計画を見直している		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	同法人の通所介護の時々訪れ一緒にレクリエーションをする等、他職種にも相談しながら多様なサービスを提供できる様努めている		

【事業所名】グループホームすずらん内原 ユニット名:かがやき

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	協力地域資源を利用し、利用者が意欲的に生活できる様支援している		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	定期的にかかりつけ医に往診を行ってもらい、必要な場合は受診していただいている。本人の以前通っていた医院に継続しかかりつけ医となってもらっている	本人や家族の希望を聞いて、各人のかかりつけ医に往診を依頼している。往診できない時は協力医を紹介している。受診は家族で行っているが、家族が行けない時は介護タクシーの使用で支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週4回看護師が様子を見に来てくれておりその都度利用者の情報を伝え場合によっては処置してもらい、指示を仰いでいる		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院の際に密に情報交換を行っている、また、早期に退院できるようにホーム内の体制も整えている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期対応指針を家族に掲示し、十分話し合う場を設け、納得のいく最後を迎えられる様支援している	事業所で終末期まで支援できる事を入居時に説明している。状況に応じて家族や関係者と話し合いを持ち、家族が泊りこみで介護できるようにしている。入院を希望する時は入院先の医師を交え話し合っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	対応マニュアルはあるが、十分に訓練はできていない。事故報告書、ヒヤリハットにて、代表者の指導を仰ぎ、ケアに活かしている		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害避難訓練は年2回実施しているが、地域との協力の下では行えていない。地震、水害時の避難訓練等は、地域との協力体制を築き、早急に検討が必要である	避難訓練は入居者も参加して年2回行っているが地域の協力は得られていない。今年地震を想定した訓練を行っており、避難経路は職員に周知されている。	地理的に水害を受けやすい地域であり、地域住民と協力関係を築き、消防署にも指導を依頼して入居者が安全に避難出来るよう、より安心できる対策を期待したい。

【事業所名】グループホームすずらん内原 ユニット名:かがやき

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	さりげない介助、プライベート空間での礼儀、本人の返答能力に応じた質問方法、本人が思っている現実を否定しない等、対応しているが、まだまだあらゆる場面でできているとはいえない	言葉かけについて職員アンケートを取ったことで、自分の事として考えられるようになった。お互い注意し合い、個人を尊重した声掛けなど配慮している。法人内の研修でも取り上げ意識を高めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	直接的に表せない人については選択してもらえようと思いの表出と自己決定が出来るよう支援に努めている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	出来る限りその人のペースで生活出来る様に支援している		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	アクセサリー、帽子、毛染め、パーマ等、個性を大切に支援している		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の好みのメニューを献立に取り入れ、外食、弁当等、バラエティーに富んだ食事を提供している。調理の下ごしらえや食器洗い、片付け等も共に行っている	ホームで借りている畑で収穫された食材も使い、好みを聞いてメニューに取り入れ、入居者と職員と一緒に準備、調理、後片付けなど出来る事をさりげなく行っている。一緒に会話をしながら食事を楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分量を記録に残し、不足や異常の発見に努めている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	各利用者の状態に応じた口腔ケアを行っている。また、薬剤で義歯の除菌を行っている		

【事業所名】グループホームすずらん内原 ユニット名:かがやき

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人一人の排泄パターンを把握する為カンファレンスで検討し、把握に努め、負担や危険を考慮しながら可能な限りおこなっている	排泄パターンを把握する事により、夜間おむつを使用している人も日中ははずし、その人に合ったパットを使用するなど個人に合わせた工夫を考えている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	規則正しい生活が送れる様支援し、消化の良い食材、繊維物、乳製品を取り入れている。食事前に軽い体操も取り入れ支援に努めている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	リフト浴、一般浴を曜日分けし実施しているが、要望があれば一定の時間内で随時入浴してもらっている。	隔日に実施している。時間は午後に設定しているが、希望により夕方に入浴する入居者もいる。拒む人には無理強いせずゆっくりした話し合いの中で決定している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人一人の睡眠パターンを把握し、寝付けない時にはテレビを一緒に見たり、添い寝したりし、より良く安眠出来るよう支援している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬情報を個々の記録へファイリングしすぐに確認できるようにしている、また、調剤薬局との連携にて、指導を頂いている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	誕生日には本人の希望する食事やおやつ等を提供し、皆で祝ったり、外出支援、家事、園芸等でその人に合った支援を行っている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	可能な限り家族等と一時帰宅や外出は自由に行ってもらっている。日光浴や散歩の支援は日々おこなっており、ドライブや外食、行楽シーズンには利用者個々のニーズに沿った外出支援を実施している	日常的に散歩や日光浴をしている。個人の希望により畑仕事に出掛けたり、ドライブや水族館、初詣、花見などの外出、また外食に出掛けたりと、その人に合った外出支援をしている。	

【事業所名】グループホームすずらん内原 ユニット名:かがやき

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	管理出来る方には所持してもらっている。買い物に出掛けた時には好きな物を買ひ、能力を維持出来る様に支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	公衆電話を設置しており希望があれば使用してもらっている		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間に季節に応じた飾り付けをし、季節を感じてもらえる様工夫している。夏場、日差しが強い場所には立てずやグリーンシャワー等で調光に工夫している	窓からは近隣の風景が見渡せ、四季が感じられる。共有空間にはソファが置かれたくつろげる空間があり、テレビの前に集まる入居者の話し声が聞こえ、家庭的な雰囲気があり、その人らしく楽しめる空間になっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロア、廊下にソファを設け、テレビ等も設置し、くつろげる居場所作りに努めている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの家具、装飾品、本等を持ってきてもらい安心して生活できる様に支援している	居室には馴染みのものがおかれ、カーテンや障子など好みに合わせたものになっており、落ち着いて居心地よく暮らせるようになっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	通路に手すりを設置、トイレに貼り紙をし、手すりが見えにくい方の為に色付きのテープで目立つように等工夫し、安全に生活できるよう支援している		